



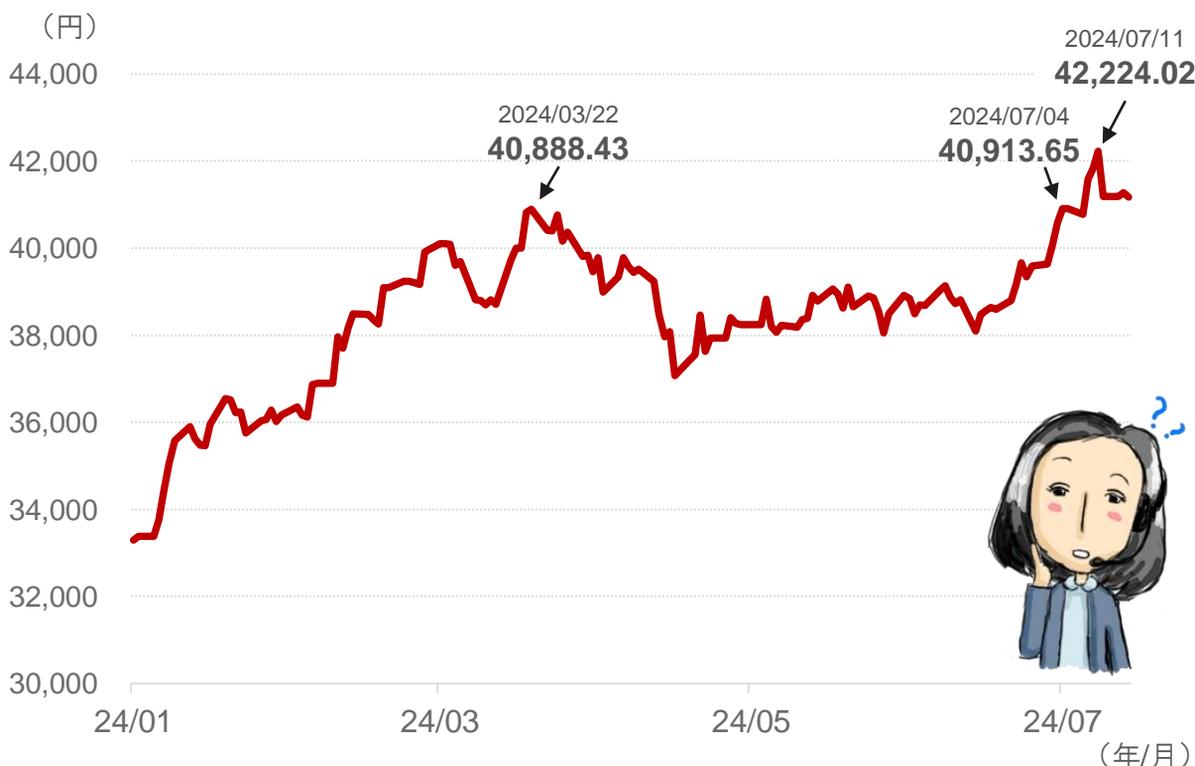
Vol 186 高く売って、安くなった時に買い戻す？ 大切なのはマーケットに居続けること

日経平均株価は7月4日に終値で約3カ月ぶりに史上最高値を更新し、その後も上昇の勢いを強め、翌週11日には終値で4万2,000円台にまで到達しました。

株価上昇の背景として、円安などによる企業業績期待に加え、米国の良好な経済指標の発表や利下げ期待の高まりなどが挙げられます。

史上最高値を更新しているということもあり、「いったん売却した方がよいか」「再び下がった時に買い直すのはどうか」という売買のタイミングに関するお問い合わせをいただくことがあります。

■日経平均株価の推移



期間：2024年1月4日～2024年7月17日

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

上記は過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

売買のタイミングを計ることをお勧めしない理由

「高値で売って、安値で時に買い戻すことができれば」と考える方は少なくないようです。しかし、2つの理由から売買のタイミングを計ることはお勧めできません。

1つ目の理由:最良のタイミングで売買を行なうことはプロの投資家でも至難の業

例えば、11日の日経平均株価は4万2,000円台を付けましたが、翌日12日は前日の海外市場で円が対米ドルで急伸したことなどをを受けて終値で - 1,033円(- 2.4%)と大幅安となりました。円急伸の背景として政府、日銀による為替介入の観測などが出ていますが、それを事前に予測するのはプロの投資家であっても難しいと思われま

2つ目の理由:大きく上昇する日を逃してしまうと、リターンに大きな影響が出る

日経平均株価は、2000年以降の約24年間で約2.1倍のリターンを挙げています。下の表は、当期間において一日あたりの上昇率が大きかった上位10日を抽出したものです。折れ線グラフの灰色の線は、この10回の上昇時に買い付けをしていなかった場合の推移をシミュレーションしたものです。極端な例ですが、約24年間継続して保有した場合(赤色の線)と比較し、たった10回の上昇を逃してしまっただけで、リターンに大きな差が出てしまうのです。

■日経平均株価の推移と1日の上昇率が大きかった上位10日を逃した場合のシミュレーション



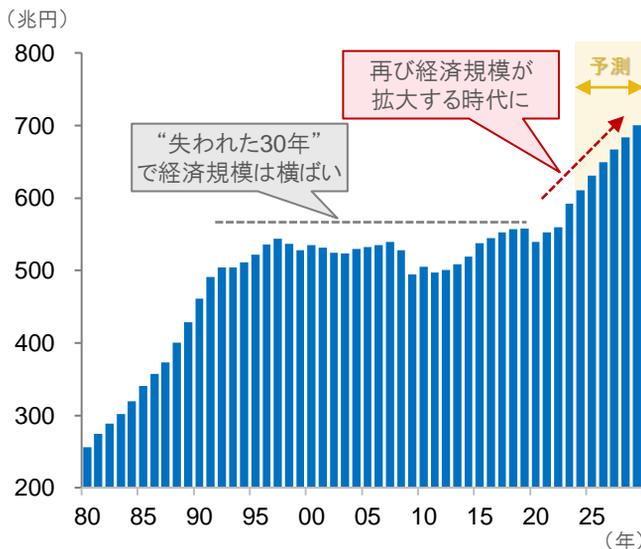
期間:2000年1月3日~2024年7月17日 2000年1月3日を100として指数化
信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
上記は過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

長期の資産形成にとって大切なことはマーケットに居続けること

日本経済は長期間続いていたデフレからの脱却が実現しつつあり、インフレの流れとなっています。今後、インフレが定着すれば、売上増、賃金増、消費増、物価上昇の好循環となり、日本経済は再び拡大基調となると期待されます。企業活動の結果は売上げや利益として表れ、確度の差こそあれ株価に反映されます。

長期の資産運用において大事なことは“マーケットに居続けること”です。目先の市場動向に一喜一憂するのではなく、デフレ脱却期待の他、東証の市場改革による企業の変革や新NISAスタートによる追い風が吹く日本株への投資を長期の資産運用の1つとして捉えていただければと日興アセットは考えています。

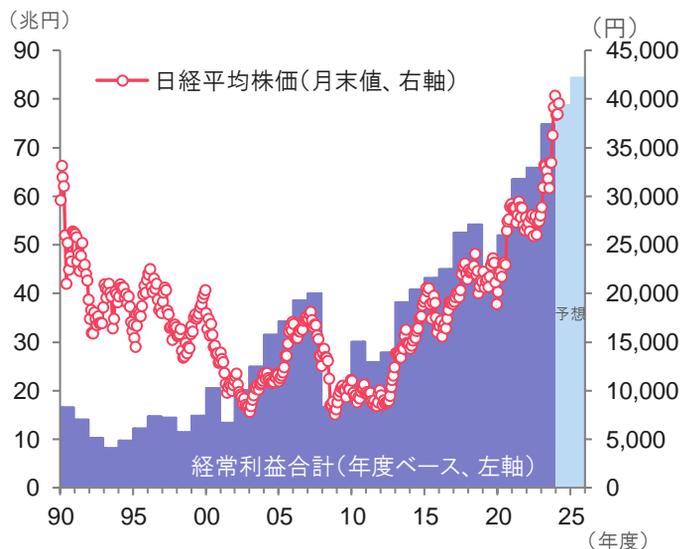
■日本の名目GDP推移



期間：1980年～2029年予測

(出所)IMF「World Economic Outlook Database, April 2024」

■上場企業(除く金融)の経常利益合計の推移



期間：1990年度～2025年度※日経平均株価は2024年6月末まで

※予想は日興アセットマネジメントの2024年6月時点のもの
信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

上記は過去のものであり将来の運用成果などを約束するものではありません。

※当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。



nikko am

コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00～17:00

日興アセットマネジメント